

活動の記録

11月21日(日)曇

ナラ枯れ病が猛威を振るい豊英島では年ごとにコナラの枯死木が増えていきます。何十年もかけて育った大木が次々に枯れるのを見るのは心が痛みますが、残念ながら私たちに可能な防除の手立てが見当たりません。

植物同士ではこれまでの最優占種の占有割合が減るので、生存競争が再スタートすることになり、この変遷を見守るのも興味深い活動のテーマになると思います。食物連鎖の土台になる植物相が変われば、それに依存する動物や菌類の顔ぶれにも変化があるものと思いますから、その点にも注目です。

しかし、私たちが直面する深刻な問題は枯死した木からの落ち枝や幹が突然倒れる危険に晒されていることです。確率は高くないとは言うものの運悪く直撃を受ければ命に係わる事故になってしまいますから、役員間では一時的な活動休止も検討しましたが、安全を確保しつつ活動継続する意見が勝っていました。

この結果を踏まえて11月の活動は立ち入り禁止の危険エリアを明示するテープ張り、危険木の伐採に特化しました。危険木は本数が多過ぎるので、最初はつり橋と千年広場をつなぐ通路の両側と千年広場周辺から切り始め、徐々に範囲を広げる方針です。

当日は曇り空に無風でしたから、伐採にはまずまずの条件でした。ワイヤーやロープを引いて倒す方向をコントロールする手順も次第に慣れて午前より、午後と効率が上がりました。帰り際に「今日はいつもの3倍働いた」と呟きが聞こえましたが、事故無く活動が終えられたのが何よりでした。

参加会員は秋元、伊藤、鶴沢、苅米、久我夫妻、坂本、福島、真鍋の9名でした。(坂本)



○晩秋のきのこ

昼食の為、広場の丸太椅子に座ると目の前に赤っぽいキノコが生えていました。手に取るとハツタケの仲間だとわかります。「アカハツかな？」と言うと間髪を入れず「11月だからアカモミタケ！」と声がかかりました。傘の裏から赤い汁が出ましたが、時間がたっても緑青色に変色しないのでアカハツではなくアカモミタケが正解でした。離れた所から一瞥しただけ



アカモミタケ



ナラタケ

で正解を言い当てる眼力に脱帽です。

千年広場近くのコナラの古い切り株を中心にナラタケが大発生していました。

足元に生えているのに気づかず踏みつぶされた株もありました。この切り株には以前にも大発生した記憶があるので、これで2回目か3回目ははずです。10日以上雨が無く、乾燥が続いていたのにこんなに出るなんてびっくりです。(坂本)

○危険木の伐採作業

現在の豊英島は、2019年の房総半島台風による倒木や幹折れ、ナラ枯れによる多数の枯死木の発生により林内が危険な状況となっています。9月の便り（216号）でもお知らせしたとおり、島内では100個体以上のコナラが枯死すると予想されます。

ナラ枯れで枯死したコナラは腐朽が早く、1年後には落枝が始まり、枯死から4年後には木が倒れる可能性があると言われています。したがって、枯死木を伐採する場合は、枯死から時間が経過すると作業中に落枝して危険なため、枯死から1～2年のうちに伐採する必要があります。そこで今回は、島内に安全に活動できるエリアを確保するために、一部の枯死木、危険木の伐採作業を行いました。

伐採作業は、苅米さんをリーダーにロープやチルホールを使って、千年広場と、吊り橋から広場までの歩道沿いを中心に1本ずつ進めました。今回の作業で伐採できたのは、広場周辺の台風で幹折れしたコナラ1本、ナラ枯れによるコナラ枯死木が5本、歩道沿いのナラ枯れによるコナラ枯死木が3本、サクラの枯死木が1本でした。

伐倒方向がずれて広場のテーブルが破損するというアクシデントもありましたが、全員がケガなく作業を終えることができました。リーダーの苅米さん、作業にご参加のみなさん、お疲れさまでした。

なお、伐採を行ってみて分かったのは、去年の夏に枯れたコナラはすでに枝がもろくなっているということで、ほとんどかかり木になることなく伐倒できました。伐倒しやすい反面、伐採作業中の落枝や、伐採時の枝の飛散には十分な注意が必要です。反面、伐採作業中の落枝や、伐倒時の枝の飛散には十分な注意が必要です。また、幹も腐朽していることから、ツルを大きめにとって伐倒方向にチルホールで牽引して倒す方法が良いと思われます。牽引のためのロープを高い位置



未整備地区には「キケン注意」の標識

にかけるためにはスローラインも有効でした。

今後も安全に活動できるエリアを確保するために、引き続き枯死木、危険木の伐採作業を進めたいと思いますのでご協力をよろしくお願いいたします。

（福島）



高い位置にロープをかけチルホールで牽引



ナラ枯れにより腐朽しているためかかり木になりにくい



株立ちのコナラは1本ずつ伐採



植生保護柵内のコナラはネットを壊さないように高い位置で伐採

○第2のギャップを

豊英島は、一昨年の台風15号被害にカシナガキクイムシ被害が重なって壊滅的な状況にあります。詳細は坂本さんや福島さんのコメントのとおりで、当面は危険木を伐採して安全を確保するエリアと、立ち入り禁止を徹底して活動を控えるエリアに区分して活動するのが現実的と思われます。21日の活動では、中央通路と左右の遊歩道の3か所に、立ち入り禁止のテープを設置しました。余裕を持って少し手前に設けてあります。

なお、今後伐採を行うに際しては、一番被害のひどい中央通路周辺を中心に、被害木のみならず他の樹木も皆伐して500~1000㎡の新たなギャップをつくりませんか。安全確保の上でも、森林の取り扱いの点でも理に適っていると思います。

7年ほど前に作った第1のギャップでは、森林に再生する過程でさまざまな植物や昆虫が出現し変化する過程を目にすることができました。今度はまた少し違った視点で、森の再生過程を見守ることが出来れば楽しいと思います。（伊藤）

○伐倒木の整理

数か月振りに島へ入りました。一昨年の台風で、かなりの被害が出ていたのに、今回は、更に「なら枯れ」による被害が、至る所で発生しています。安全ゾーンを作るため、苅米さんを中心にメンバーで危険木を伐倒しました。

午後、伐倒木が通路を塞いでいる所があるので、伊藤さんの応援を得てチェーンソーで切断し除去しました。これから活動に参加される方の安全を願っています。（久我哲也）

○物置小屋の整理

久しぶりに活動に参加しました。今回、広場の休憩所に荷物を置いていたら、伐採大木の一部が飛んで来ました。工具箱が直撃を受け、破片が方々に散らばり、中に入っていたペンも用不能。（新たに工具箱を購入予定）棚の上段にある品を、誰にでも分かる様に右側に金網ネットを置き、更に正面にはロープ類とブルーシート、シルバーシートを置きました。左端には、椎茸保護の緑と黒のネットを立て掛け、下段には、コンテナが3個、昔懐かしい大量に収穫が出来た椎茸の秤等があります。（久我則子）

○秋の植物たち

コナラ伐採地も紅葉が進んでいました。ヤマウルシ、コマユミの赤色、ゴンズイ、オケラの黒紫色の葉がまず目に入りました。リュウノウギク、シロヨメナは50cmほどの高さで白い花を咲かせていました。ヘクソカズラとコバノガマズミは実をつけ、リンドウは蕾の状態で二三日後には咲きそうなほどふっくらとしていました。

保護柵外では、クロヤツシロランが一株30cmほどの草丈で、吊橋着岸点付近にはセンブリが今にも開花しそうな蕾をつけていました。わずかな時間しか島にいられませんでしたでしたが十分に秋を満喫しました。（秋元）



センブリ

リュウノウギク

クロヤツシロラン

ヤマウルシ

コマユミ

○センサーカメラの動物たち

センサーカメラによる調査を担当していただいている秋元さんが、3月まで対応が難しいとのことで、一時的に調査を引き継ぎました。もし、担当してみたいという方がいらっしゃいましたらお知らせください。

現在、島内には2台のセンサーカメラが設置されており、今回、1台が追加されましたので今後は3台態勢で島を利用している動物の調査を進めて行く予定です。調査の内容は、活動日にデータを回収し記録されている画像、動画のデータを集計、整理するというものです。

今回は、9月の個別活動（9/20）以降のデータを回収しました。吊り橋の横に設置したカメラは静止画1枚と動画10秒をセットで撮影する設定で、各237個の静止画と動画が記録されていました。また、トビの巣近くに設置したカメラは静止画3枚と動画10秒をセットで撮影する設定で、114枚の静止画と38個の動画が記録されていました。

吊り橋横のカメラでは、風や光の影響でシャッターが切れたものが多くありましたが、ニホンジカ、ニホンザル、タヌキ、ハクビシン、アライグマ、イタチ、キジバトが撮影されていました。動画を含めて撮影頻度が最も高かったのはタヌキです。

トビの巣の横のカメラでは、ニホンジカのみが記録されていましたが、10月5日～26日にかけて大きな角を持ったオスジカの静止画、動画が記録されていました。この時期は発情期に当たるため、交尾のために島に来たものと思われます。動画を確認したところ、このオスジカは左前脚を負傷しているようでした。（福島）



ニホンジカ♂

ニホンジカ♀

ニホンジカ幼獣

イタチ

お知らせ

○次回の活動日は、12月5日（日）

12月の活動日は、紅葉時期にあわせて第1日曜日です。年間計画では、台風被害木等処理と、シカの生息状況調査が予定されていますが、今回の便りのとおり島内はまだ危険な状況にあるため、予定どおりの活動は難しい状況です。危険木の伐採作業を優先した活動になると思いますが、詳細はメールにてご案内します。

なお、島で活動を行う場合は必ずヘルメットを着用するようにしてください。